

栗東市地域福祉計画委員会ならびに栗東市地域福祉活動計画委員会 要点録

(2023 年 10 月 27 日(金)開催)

開会

事務局（栗東市）

定刻になりましたので、栗東市地域福祉計画委員会ならびに栗東市地域福祉活動計画委員会を開催します。開催にあたりまして、市民憲章を唱和します。

(市民憲章唱和)

事務局（栗東市）

健康福祉部長よりご挨拶申し上げます。

(挨拶)

事務局（栗東市）

今年度初めての委員会ですので、委員の皆様に自己紹介をお願いします。

(各委員紹介)

事務局（栗東市）

本日の委員会につきましては、19 名の委員のうち 13 名の委員が出席しており、本委員会が成立していることを報告します。

(1) 公開について

事務局（栗東市）

本委員会の傍聴の申し込みはありませんでした。

しかし、本市では「栗東市附属機関等の会議の公開に関する要領」において会議は基本的に公開となっております。内容によって非公開に該当する事項がある場合は、協議により公開・非公開の決定をいただきます。会議を非公開とするのは主として個人情報や財産の保護、事業の意思形成過程にあるため公開にすることで支障が生じる場合などです。

この委員会においてはそのような理由に該当する事項がありませんので基本的に公開するものと考えられます。また議事録においても同様です。

つきましては、この会議の公開とすることについてお決めいただきたいと思います。

委員の皆様、いかがでしょうか。

(異議なしの声)

ありがとうございます。

それでは、本委員会を公開といたします。

以後の議事進行につきましては、本会の規定により、委員長が議長を務めることとなっておりますので、村田委員長様よりしくお願いいたします。

村田委員長

先ほど部長のご挨拶の中にもありましたが今年度は 1 年目。計画策定の時に関わってくださった顔ぶれもありますのでどうぞ忌憚のないご意見をください。この後の皆さんとの話し合いの時間も

ありますので挨拶も短くすませ、進めていきたいと思います。

(2) 第4期地域福祉計画の進捗管理について

村田委員長

協議事項の②－1について、事務局より説明をお願いします。

事務局（栗東市）

（資料2に沿って説明）

村田委員長

重層的支援体制についてピックアップして発表していただきました。ただ今の説明について、ご意見やご質問はございませんか。

策定しただけで終わってしまう事はよくない。多くの方が共に関わりながら見える化していくことはとても大切なことであると思います。

委員

資料1の番号が抜けているのはなぜですか。例えば、資料1の、1の次が3になっている。

事務局（栗東市）

各課に照会させていただき、今年度の取組で該当があったものを掲載させていただいております。今年度の取組で該当なしの回答は削除させていただいております。

村田委員長

どうしても年度途中というのもありますし、5年間の計画なので今年度取組がない事業もあるようです。

委員

できたら次回からで良いので、例年やっている事業、今年やり方を変えた事業、新たに始めた事業、など3つ位に分けて表記していただけると分かりやすくなるのでありがたいです。

事務局（栗東市）

ご意見ありがとうございます。現在やっていること、これからやっていくことだけではわかりにくいと思いますので、検討していきたいと思います。

(3) 第3次地域福祉活動計画の進捗管理について

事務局（社協）

続きまして、協議事項②－2「第3次地域福祉活動計画に係る令和5年度事業計画の進捗について」の協議に入るにあたり、社会福祉法人 栗東市社会福祉協議会 平田善之会長、ご挨拶をお願いします。

(挨拶)

この議事の進行につきましては、岡野委員長、よろしくお願いします。

岡野委員長

(挨拶)

それでは、「第3次地域福祉活動計画に係る令和5年度事業計画の進捗について」社協事務局より説明を求めます。

事務局（社協）

説明させていただきます。

資料3：第3次栗東市地域福祉活動計画 進行表（令和5年度上半期）は、第3次地域福祉活動計画の項目の全てを記載した資料となります。

資料4：につきましては、資料3のなかから要点となる項目をピックアップした資料となります。今回は、資料4のピックアップ版を使用して、ご説明させていただきます。

(資料4に沿って説明)

岡野委員長

ただいま、社協事務局より計画の説明がありましたが、委員の皆様から何かご意見やご質問ありますか？

委員

教えていただきたいのですが、子どもの学習についてです。これは子ども食堂とは関係ない学習の場ということですね。課題として利用生徒の人数増による食事提供と書かれていますが、食事提供をしているが人数が増えてきたのでどうしようかなという部分ですか。

事務局（社協）

実績を見ていただきますと、コミセン葉山東の生徒の利用が増えてきております。食事提供は基本的におにぎりともそ汁という補食的な役割となっております。利用者の増加により対応が厳しくなっているため検討していく必要があると考えております。

委員

食事を提供されているということは、開催時間はどのようになっていますか。

事務局（社協）

時間は、17時から葉山東は19時半まで、ゆうあいの家は20時まで開催しています。

委員

時間的に夕飯・軽い食事というものです。ありがとうございます。

岡野委員長

他に質問いかがでしょうか。

もし無ければ一つだけ。CSW による相談支援の実績が示されていますが、中長期的に紹介することが難しいかもれませんが、どのような相談が多く、どう対応されていますか。

事務局（社協）

説明の中でも回答させていただきましたが、複雑・多様化した問題、例えばお金がないだけでなく介護も必要等色々なパターンがあります。社協だけではどうしようもない課題や制度に結びつかないケースは関係機関にも相談して進めることが多いです。

岡野委員長

一人の方あるいはひとつの世帯に複合的に課題があり、多機関協働・多職種連携が不可欠になっているのかなと思います。

他に、ご意見等ないようですので、進行を村田委員長にお返しします。

（４）重層的支援体制整備事業について

村田委員長

では、続いて（２）報告事項に移ります。

重層的支援体制整備事業についてです。事務局（栗東市）説明をお願いします。

事務局（栗東市）

（資料５に沿って説明）

村田委員長

ただいま、報告がありましたが、委員の皆様から何かご意見ありますか？

委員

8050 問題とはどのような問題ですか。

事務局

80 歳の親御さんに対して 50 歳のお子さんが例えば働かずに家に引きこもって親の年金で暮らしている。一見すると平和に暮らしている状況ですが 80 歳の親御さんが介護状態や亡くなられた場合、その 50 歳のお子さんが今後どのように生活していくのか、就職していないのでどういう形で就労支援していくのかそういったことを 8050 問題といいます。

委員

ありがとうございます。

事務局

8050 そのものが課題というより、その世帯が孤立してしまっていてその状態すら顕在化するきつ

かけがない。50 の人がいること自体分からないケースもあります。例えば私たちが、高齢者の介護で関わった時に初めてお子さんがいらっしゃることに気が付き、非常に困窮されていることが発覚することもあります。さらに、7040 も言われ、8050 だと高齢になってきており、50 の方の再就職も難しくなっています。就職支援を考えるには 7040 の段階で早期に関わっていくことで 8050 の手前で何とかできないかということも社会の中で取組の例の一つとして挙げておきます。

委員

ありがとうございます。介護離職した後に親の年金で暮らしている方のその後をどうしていくか等の話を身近でも感じていることです。

委員長

はい、ありがとうございます。私は 8050 問題を 8020 と言い間違えてしまう時があります。80 歳で歯が 20 本ですね。最近短縮していることが多いですね。確かに 8050 問題含めて、社会全体の課題として考えていかなければならないことだと思います。

さて、時間的に後の皆さんから貴重な意見を頂く時間をたくさん取りたいという風に思っておりますので、事務局からの説明に対して質問がありましたら、会議終了後でも大丈夫ですのでご意見寄せていただきたいです。それではいったん事務局の方にお戻しします。

事務局

第 1 部進行については、村田委員長様、岡野委員長様ありがとうございました。では、ここからは第 2 部の意見交換に移りたいと思います。会議の冒頭でも説明いたしましたように、本日はグループを作ってその中でご意見を交換していただきたいと思っています。休憩の間に職員が座席を動かしますので誠に恐縮ですが荷物を持って席の移動をお願いしたいと思います。

それでは 10 分間の休憩をはさみグループワークに移りたいと思います。

再開予定時間は 14 時 45 分（10 分程度）とさせていただきます。

グループワーク分けについては、ネームプレートにグループ番号を記載してあります。

《休憩》

(5) グループワーク



①グループ「断らない相談支援体制の構築」

地域づくり

- ・ボランティアの育成をしていきたいです
- ・フォーマルなサービスだけでなくインフォーマルなサービスを探し活用していきたいです

つなぐ

- ・相談したい人が相談支援をするところに行きやすいことが必要です
- ・支援体制を充実していくことが必要です
- ・場合によっては地域包括支援センターにつなげることも一つの方法だと思います

居場所

- ・長期目標にはなるが自治会等で「サロン」を開催するのも人とのつながりが出来てよいと思います
- ・地域でまず何かやってみるのがいいのではないのでしょうか(試行錯誤でよい)
- ・自治会の中でゆるいお茶会を計画したいです

まとめ:自分一人で出来ることとして、近所での声掛け・挨拶・雑談、近隣同士で関心を持つことも必要です。郵便受けや洗濯物、雨戸など見守り体制と関係づくりが大切です。中期的目標は断らない相談支援を考えた時「傾聴」は大事になってきます。また、主訴を引き出すためのキーパーソンも決定しなければならないでしょう。誰かと一緒に出来ることの短期目標は、普段から関係団体との顔の見える関係をつくり、支援のための会議を開くことでつなぐ支援をスムーズにしていく基盤づくりが大切ではないのでしょうか。また、ふれあい行事に相談窓口を設けることで相談支援への繋がりがやすさを作っていく必要もあります。長期目標としては、小地域での居場所づくりやサロンの開催、自治会でのサークル育成という意見があがりました。

②グループ「地域づくり」

つながり

- ・鍵をあずかれる関係づくりを心がけます
- ・話を聞く・話し合いをします
- ・サロンと他の団体が連携出来るようになりました
- ・活動に参加してもらうようにします
- ・地域巡回しています

場所

- ・グランドゴルフを行っています
- ・サロンや 100 歳体操・地域の人が集まれる場所があります
- ・清掃活動をしています
- ・ふれあい広場・ふれあいサロンを行っています

人

- ・話を聞いてあげられる人になりたいです
- ・人に寄り添えるようにしていきたいです
- ・地域活動したい人を探していきたいです



まとめ：自分一人で出来ること、日頃からのあいさつ、コミュニケーションから少しずつ信頼関係が構築され、困った時に「助けて」といえる関係づくりが、地域づくりにつながるのではないのでしょうか。次のステップとして、地域住民で集まる機会(サロン活動、学習会、まちづくり講座)により、さらにつながりを深めていきたいです。

誰かと一緒にできることは、地域活動をしたい仲間を探すことから始めます。障がい児・者、高齢者も含め、全ての住民が避難訓練等に参加できることや福祉を学ぶ機会を持つことで、自然に配慮ができる地域づくりをすすめていきます。また、空き家を活用した交流の場や高齢者の困りごとを地域で助ける仕組みをつくっていききたいです。

③グループ「参加支援の充実」

関係づくり

- ・小学校の集合場所へ顔を出し挨拶することで子どもの見守りにもつながります
- ・地域の行事でサロンなどはまずは見学から声をかけるそして地域の活動への参加を誘います

場づくり

- ・フードドライブへの協力やごみ拾いなどのボランティア事業も実施しておりそれらの参加も呼びかけています
- ・地域の運動会もみんなが参加しやすいような種目など工夫して企画しています

相談

- ・労働問題を中心にそれ以外の相談もたくさん受けています
- ・様々な問題解決に向けてサポートしています
- ・資金調達などはろうきんなどを紹介し情報提供しています

まとめ：自分一人で出来ることとしては、自身の健康やペットのための散歩を登校時間に合わせ、同じ時間にすることで定期的となり同じ人と同じ時間に出会うようきっかけをつくることで、誰かと顔見知りになることです。出会わなければ「どうしておられるか」⇒異変に気が付き、サインに気づくこともできます。誰かと一緒に出来ることは、短期目標としては、地域活動やイベントへの参加促進を図ることです。商工会が主催して、家族で参加できる企画を進めています。ニュースポーツなど、子どもも大人も誰でも参加できるものを実施します。長期目標は、以前あった、婦人会や子ども会、老人クラブも活動が衰退し、なくなっている地域も多いです。以前は半強制的に加入する流れがあったが今は加入が自由になり、結果的に活動が出来なくなっています。地域組織の結成再結成が必要かもしれません…。それを意図して開催したわけではなかったが、美術展を開催したところ、ひきこもりの方が作品を出展していただきました。このような形で参加できる場ができました。



岡野委員長

今大事なことは、断らない相談です。他人事と考えずに色々と話を聞く、受け止めることです。大事なことは「あの人は、あのような生き方だから」とほったらかしになることに繋がります。それは、社会排除に繋がっていきます。おせっかいを焼いてみるのが断らない相談支援体制の構築に繋がります。断らない、ほっとけない、ほっとかないことです。

2つ目は、重層的支援体制もありますが裏には縦割りの福祉はやめようという構想があります。老人福祉センターは高齢者だけでなく多世代で交流し、交流の場として捉えることです。縦割り思考を変えられます。

3つ目は、アウトリーチです。どんなことも気が付いたら積極的に繋がっていかうとすること。地域住民の方、その他専門職、企業、交流していく必要があります。今の日本の少子高齢化、情報化、グローバルイズムは世界の最先端をいっており孤立に取り組むことは世界が注目しています。アジアでは少子高齢化が進んできています。日々の暮らしの中で気づいていてもらいたいです。

村田委員長

こういう力こそが地域を良くしていく力になります。

事務局

委員長、ありがとうございました。また、ご参加いただいた委員の皆様ありがとうございました。

栗東市としましても、今回の意見を拝聴し社会福祉協議会と共に誰一人取り残すことのない共生のまちを実現するため、地域福祉の推進に取り組んでまいりたいと存じます。来年も、この委員会は開催していく予定ですので、ご理解・ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。以上をもちまして閉会とさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。

以上